



八田寿人
自民党市議団
・無所属の会

問 災害時の生活用水協力井戸の制度概要について伺う。

答 初期消火、近隣者への飲料水以外の生活用水の提供等、公益を目的として市民が所有する井戸水を提供してもらうため、蒲郡市災害時生活用水協力井戸指定要綱を定め、市民からの登録を募っている。

問 実際の災害時の運用について伺う。

答 所有者及び自主防災会の方と、地域の皆様で協力して、活用していただくことを想定している。

問 湯水時の協力井戸の制度の概要について伺う。

答 蒲郡市協力井戸指定要綱を定めており、湯水時又は非常変災時



における手洗い、洗濯などの生活用水確保のため、井戸使用者の協力を得て協力井戸を指定し、湯水に強いまちづくり対策及び非常変災時に資することを目的としている。

問 災害時協力井戸の登録のオンライン申請への対応について伺う。

答 フォームによるオンライン申請を導入し、手入力による部分を減らしていくことは、業務の軽減のみならず、正確なりすと管理に寄与することだと考える。電子メールによる申請は継続しつつ、フォームによるオンライン申請の導入に向けて進めていきたいと考える。



蒲郡市民病院
について

問 新たな診療科目の設置にむけて、総合診療科の現在の状況を伺う。

答 現在、厚生労働省において総合診療科とすべし、令和7年度には、検診状況を踏まえながら、内科を主とした総合診療科の開設ができるよう準備をしていきたい。

問 救急科の現状について伺う。

答 救急科は24時間365日稼働する激務の診療科であり、全国的に医師数は少なく、すぐに常勤医師を派遣することは難しい状況と聞いている。6年1月から医師等への指導的役割も兼ねて、週に1回、救急科の医師に赴



蒲郡市民病院

任してもらっている。引き続き救急科医師の確保に努め、救急科の開設に向けて努力していきたい。

問 今後、診療科に特色を持たせていく考えはあるのか伺う。

答 現在計画している内視鏡センターに加え、呼吸器の分野においては高度な診療が可能であり強みだと考えている。今後、呼吸器内科や呼吸器外科医師の確保・強化が可能であれば、例えば、呼吸器内科と呼吸器外科を合わせたセンター化であったり、7年度に増員される整形外科分野の関節外来などを検討していきたい。



東三河広域連合設立
10周年について

問 設立から10年経ち、その評価を伺う。

答 「東三河はひとつ」を合言葉に地域の力を結集し、新たな魅力と活力の創造に努め、誰もが真の豊かさを実感できる地域の実現を目指し、様々な取組を進めてきた。

「広域連携事業」は、地域振興に資する情報発信や地方創生事業について展開できている。「共同処理事務」では、介護保険事業など、地域の行政運営や住民サービスの適正性を維持する上で効果的であった。「権限移譲事務」では、一般旅券の発給申請等に関する事務等、利便性の向上につながったと評価している。

問 広域連合を発展的に解消して、豊川用水



受益者の湖西市と衆議院選挙愛知14区の幸田町を含め、東三河広域連合の拡大版として合併すべきではないか。

答 蒲郡市として合併すべきであるという考えは持っていない。各市町村は、それぞれの特性を生かした施策の成果を積み上げ、地域全体として発展してきたものと認識している。出生数の減少など、東三河全体の将来見通しは厳しいと言わざるを得ない。だからこそ、広域連合として一体となつて、持続可能な東三河の地域づくりに資する施策を広域的かつ計画的に展開していきたいと考えている。